

3Dプリントレプリカに触れる - フォトグラメトリーの世界 -

趣 意

本館ではこれまでも3Dの展示をしたことがあります。その時は3D技術の原理と獣医学教育における応用について紹介しました。今回はその次の段階として、国立科学博物館の森健人先生が進めておられるフォトグラメトリーという新技術を使って作成した3Dプリントのレプリカ模型を紹介することにしました。これを使えば、大きな動物の全身でもレプリカが作れます。実際に森先生は海岸に打ち上げられたクジラのレプリカを作りました。今回の展示で

は通常の展示に加えて、ハンズオンコーナーに代表的な草食獣や肉食獣の頭骨と下顎骨の組み合わせを展示して、動物によってアゴの動きがどう違うかを手に触れて体験してもらいます。これは大きな本物の標本ではできないことで、3D技術ならではのものです。このことにより、動物の体の作りがいかにかうまくできているかを、体感ができるはずで。それは教科書や映像では決してできないものです。



サバンナシマウマ



アジアゾウ



ラッコ



ジャイアントパンダ



ライオン

2019年5月14日(火)ー2019年 8月31日(土)

企画 麻布大学いのちの博物館

協力 国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター

休館日、アクセス方法などの詳細は麻布大学いのちの博物館ホームページをごらんください。

